話す英語の流暢さと正確さを向上させる高等学校英語科の指導の工夫
―半即興的なプレゼンテーションを活用した筆記ランゲージングと相互分析活動を通して―

福島県立白河高等学校　教諭　亀山　有歌

１　研究の趣旨

高等学校外国語科の授業においては，「即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す」活動の実施率は３割にとどまっている（ベネッセ教育総合研究所，2015）。また，高校３年生の英語力として，「話すこと」においては中学卒業段階とされる CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）Ａ１レベルの割合が９割近くという実態（文部科学省，2018）で，話す力の育成は急務である。

研究協力校では，即興的に自分の考えをまとまった英語で発表することが苦手な生徒が多い。考えをまとめつつ，瞬時にそれを英語で表現するには，高度な認知処理と言語処理が必要であるためと考える。そこで，短時間の準備の後に図や写真などの視覚資料を提示しながらプレゼンテーションを行う形であれば，生徒の負担を軽減しつつ，段階的に話す力を伸ばすことができると考えた。これを本研究では「半即興的なプレゼンテーション」と呼ぶこととし，これを活用した筆記ランゲージング＊と相互分析活動を行うことで，話す英語の流暢さと正確さの向上を目指した。

＊筆記ランゲージング：学習者が自身のアウトプットした英語について，モデルとの比較を通して気付いたことを自由に書くことで，自身の英語を洗練させてくプロセス

２　研究の概要

(1)【手立て１】流暢さと正確さを向上させるための筆記ランゲージング

個人端末に録画させた自身のプレゼンテーションを，同じトピックでＡＬＴが作成したモデルと比較させ，気付いたことを自由に言語化させた。そうすることで，自身のプレゼンテーションにおける流暢さと正確さに意識を向けさせた。

(2)【手立て２】正確さを向上させるための相互分析活動

録画させた自身のプレゼンテーションを視聴しながら，生徒個人に文字起こしをさせた。その後、文法・語法の正しさという観点から，パートナーと相互分析・改善作業をさせた。この手立てを繰り返すことで，間違えやすい文法・語法に意識を向けさせた。

３　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　【手立て１】においては，生徒は語彙や文法，文の構成，音声面など様々な気付きを記述し，その内容についてパートナーと意見交換をした。手立てを繰り返すうちに，生徒は徐々にプレゼンテーションの型を認識し，その型に沿ってスムーズに英語を話すことができるようになり，流暢さの向上がうかがえた。

○　【手立て２】においては，他者との協働作業によって互いの誤りに気付き，その後，自分で誤りを振り返って修正するという段階的な活動を繰り返したことで，生徒は自分の間違えやすい文法・語法のパターンを捉えやすくなり，プレゼンテーションの最中に誤りを修正できるようになった。その結果，正確さの向上がうかがえた。

(2) 今後の課題

○　流暢さも，パートナーとの相互分析活動など協働的な活動を通して向上を目指したい。

○　トピックの内容を工夫したり、発表する対象を広げたりすることで手立てに発展性をもたせたい。